

子供宝也 No.9

平成 25 年 6 月 5 日

尼崎市立武庫東小学校 校長 大楠正治

前へ、ならえっ！！

雨が心配された体育大会が終わりました。子どもたちも先生もみんな満足のいく体育大会のようでした。「終わった～っ！！」という心のゆるみか、閉会式では学級対抗リレーの表彰を忘れるという失態を演じてしまいました。申し訳ありませんでした。

そこで、4日、急遽、児童朝会を開き、学級対抗リレーの表彰を行うことにしました。舞台の上にあがった代表の子どもたちは、とても誇らしげで満足感に満ちていました。

体育大会が終わって、子どもたちにどうしても伝えたいことが私にはありました。この朝会の場で、それを伝えました。それは、6年生の組体操の一番初めの種目のことでした。「前へ、ならえっ！」「前から順に、前へ、ならえっ！」…会場の多くの方や子どもたちから、「お～っ。」という声が聞こえました。是非これを他の子どもたちにもさせたいと思いました。

6年生を代表して**6年1組**の子どもたちに舞台の上にあがってもらいました。「これからみんなが真似をするんや。しっかりやれよっ！」とあってあがらせました。中野先生の号令で再現です。ビシッと、いい感じでした。他の子どもたちも目が釘付け状態です。すばらしい姿勢、きびきびした動き、ひきしまった顔。カッコいいのです。朝からこちらもピンと背筋が伸びる思いでした。

その後、全員で真似をしました。1年生は1年生なりによくできました。他の学年の子どもたちも満足そうでした。そして、6年1組の子どもたちも満足そうでした。

まず体を動かすこと。頭はそれから。

3年1組が何やら観察記録を書いています。聞くとホウセンカの種をまいたのだそうです。小さなふたばが芽を出しています。毎日、水やりをして育ててきたのでしょうね。観察カードは上半分が絵を描くようになっていて、下の方に文を書くようになっていきます。「絵はまだしも、こんな段階で何を書くんやろ？」と思って見てみると、子どもはえらいですね。「長さは2cm 5mmです。」「葉は緑色ですが、茎の下の方は紫色です。」…。今日の神戸新聞の『正平調』という欄に書いてあったことを思い出しました。

発明発見の基本は、エジソンの時代から変わらないそうだ。道具や材料をこねくり回すうち、アイデアに巡り合う。「まず体を動かすこと。頭はそれから。」コンピューターに囲まれた実験室で、研究者の話がうかがったことがある。机にニッパー、はんだゴテ。「理論だけでは通用しない。道具を使えない研究者は一流にはなれない。」とも。そういえば青色発光ダイオードの開発で、毎年ノーベル賞候補に挙げられる中村修二さんも、同じ事を言っていた。

テストは全部100点。しかし、それはすべて頭で覚えたこと。そんな知識が役にたつのかなあ？むしろ、その知識を得るために大切なことを置き去りにしてはいないのかなあ？と思わせるような子どもたちもいます。

植物の育ちなどといったものは、インターネットに接続すれば、解説付きの動画ぐらいありそうなものです。この記事は、科学技術分野の話かもしれませんが、こういった植物の観察も、いえ、すべての学びにも、3年1組の子どもたちがやっていたような「まず体から」といった学習が大切だと思いました。いかがでしょうか…。